

## 青果用かんしょ「ふくむらさき」の安定栽培法

### [要約]

良食味な紫いも品種「ふくむらさき」は、挿苗時期を5月下旬、株間を50cm、「ベニアズマ」慣行の1.5倍程度で多肥栽培し、収穫時期を10月下旬以降とすることで、上いも重2.5t/10a以上が確保され、商品性の高いM～L品規格のいもの割合が高まる。

農業総合センター農業研究所	平成30年度	成果区分	普及
---------------	--------	------	----

### 1. 背景・ねらい

近年、焼き芋人気が高まっており、実需者や生産者からは従来の黄肉色品種の他に、紫色や橙色などの鮮やかな肉色を持つ良食味の新品種が強く求められている。肉色が紫色の新品種「ふくむらさき」は、粘質で甘みが強く、食味が優れることから、今後産地において普及が見込まれるが、従来の栽培方法では、収量が低く、上いも一個重が小さいことから、その改善が課題である。そこで、現場で求められる上いも重2.5t/10a以上、「べにはるか」並の上いも一個重180gを目標とし、「ふくむらさき」の安定多収栽培方法を開発する。

### 2. 成果の内容・特徴

- 1) 挿苗時期を5月中旬または5月下旬、収穫時期を10月下旬以降、在圃日数を160日程度確保することで、上いも収量2.5t/10a、上いも一個重180g以上を確保できる(表1)。
- 2) 挿苗時期を5月中旬にした場合、裂開率が増加する。一方、6月上旬挿苗の場合曲り率が増加する。このため、5月下旬挿苗が最も品質が安定しやすい(表1)。
- 3) 施肥量をベニアズマ慣行栽培の1.5倍(N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O(kg/10a)=4.8:19.2:9.6)とすることで、上いも収量および上いも一個重は増加する(表2)。
- 4) 株間を50cmに広げることで、上いも一個重は増加する。また、規格別収量について、青果用出荷規格のうち、商品性の高いM～L品収量が増加する(図1)。

### 3. 成果の活用面・留意点

- 1) 栽培する際には、充実した7節7葉苗を使用する。
- 2) 萌芽がやや遅いため、育苗時には地温30℃程度を目標に管理し、萌芽を促進する。また、節間もやや短いため、萌芽後も28～30℃を目標に管理し、苗の伸育を促す。
- 3) 収量を向上させるためには、在圃日数を確保する必要がある。ただし、極端な早植えでは裂開が発生する可能性があるため避ける。また、品質の劣化や貯蔵性低下を防ぐため、極端な遅掘りを避け、降霜の前に収穫を終えるようにする。
- 4) 「ふくむらさき」は鹿行地域を中心とした青果用産地を中心に50ha程度の普及を見込む。

#### 4. 具体的データ

表1 挿苗時期及び収穫時期が収量・品質に及ぼす影響

挿苗時期	収穫時期	在圃日数	上いも重 (kg/10a)	上いも 1個重(g)	上いも数 (個/株)	A品率 (%)	障害発生率 (%)		
							裂開率 (%)	曲り率 (%)	その他 (%)
5月上中旬	10月上中旬	152日	3,017	194	6.8	62	12	18	8
	10月下旬	167日	3,138	210	6.6	57	12	19	12
	11月上旬	181日	3,282	212	6.8	55	14	21	10
5月下旬	10月上中旬	138日	2,570	171	6.6	62	1	28	9
	10月下旬	153日	2,952	190	6.8	58	1	28	13
	11月上旬	167日	2,872	195	6.5	60	1	27	12
6月上旬	10月上中旬	122日	1,885	132	6.2	61	0	30	9
	10月下旬	137日	2,012	140	6.1	49	0	34	16
	11月上旬	152日	2,146	151	6.1	49	3	39	9

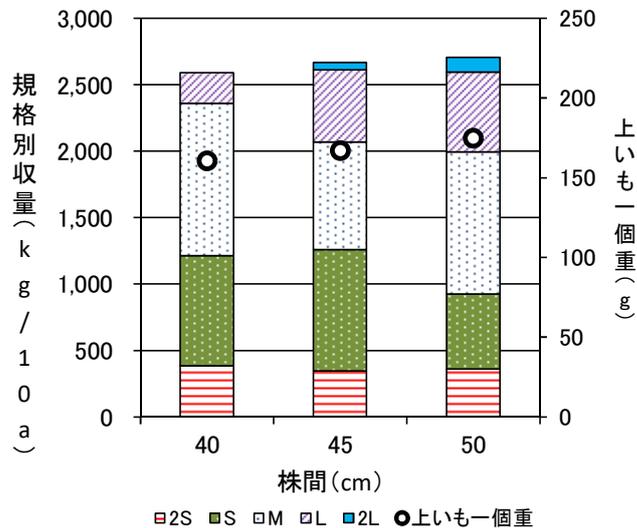
注) 施肥量(kg/10a) N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=3.2:12.8:6.4、黒マルチ栽培、株間 50cm、畦幅 94cm  
 試験地:行方市  
 注)5月中旬、下旬:3か年平均(H28~30) 6月上旬:2か年平均(H28~29)

表2 施肥量の違いが収量・品質に及ぼす影響

施肥量	つる重 (kg/10a)	上いも重 (kg/10a)	上いも 1個重(g)	上いも数 (個/株)	A品率 (%)	障害発生率		
						裂開率 (%)	曲り率 (%)	その他 (%)
慣行区	1,807	2,945	196	6.6	56	11	22	11
1.5倍施肥区	2,309	3,104	218	6.2	57	12	23	8
2倍施肥区	2,995	2,875	208	6.4	59	13	17	10

注) 施肥量(kg/10a) 慣行区 N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=3.2:12.8:6.4  
 1.5倍施肥区 N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=4.8:19.2:9.6  
 2倍施肥区 N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=6.4:25.6:12.8

注) いずれも黒マルチ栽培、株間 50cm、畦幅 94cm、試験地:行方市  
 注) 慣行区および1.5倍施肥区:3か年(H28~30)平均 2倍施肥区:2か年(H29~30)平均



注) 施肥量 (kg/10a) N : P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> : K<sub>2</sub>O=3.2 : 12.8 : 6.4、試験地 : 行方市  
 挿苗日 : H28. 5. 25、収穫日 : H28. 10. 25、黒マルチ栽培、畦幅 100cm

図1 株間が上いも重および上いも一個重に及ぼす影響(H28)

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

サツマイモ青果用有望系統「九州 165 号」の安定多収栽培技術の確立・平成 28 年度～平成 30 年度・作物研究室